

激動の広告業界で進化を続ける

株式会社関広は、京都の地域の広告代理店として、地域のイベント・キャンペーンや企業商店街の販促支援を長年手掛けてこられました。例えば、24時間放送の先駆けと言えるKBS京都の交通安全キャンペーン「かたつむり大作戦」やフリーペーパーの原型「宴会情報ブック」、学生の街・京都ならではの「京都学生祭典」など、全国的にも先駆的な事業を陰に日向に支えてこられました。「京都に根付くこと」が同社の大きな強みであり、独自の地元ネットワークを活用した提案は、顧客の信頼につな



美馬会長、南部社長、原取締役(右から)

がっています。

近年は、大手通信会社シヨックや子会社を通じてテレビCMやミュージックビデオなどの映像企画・制作など、新しい事業展開に挑戦されています。「顧客の販売促進や集客の成果を、次の新しい提案につなげていく。そんな良い循環を作っていきたい」と南部社長。激動の広告業界で、力強い挑戦が続きます。

株式会社関広

代表者/代表取締役会長 美馬 哲
代表取締役社長 南部 和久
住 所/中京区烏丸通二条上ル蔦絵屋町256
T E L / 075-212-5220
事業内容/広告代理業



多彩な品揃えで顧客を支える老舗化学品商社

前田化学株式会社は、さまざまな化学品の卸売を通して、多様な分野のものづくり業界を支えておられます。同社のルーツは呉服商であった創業者の前田奈良三郎氏が、1906年(明治39年)、わが国の化学工業界の黎明期に、得意先である神戸のドイツ商館から織物用染料や工業薬品などの取り扱いを始めたことです。工業化や地球環境への対応など市場ニーズが移り変わる中で、取扱商品や顧客も複雑多様化してきましたが、日々の営業活動から得た膨大な市場情報や顧客ニーズを自社の



大橋社長(右)には創業当時の貴重なお写真もご紹介いただきました

強みとして蓄積し、顧客への新しい提案に生かしておられます。業界では珍しく、南区に独自の製品倉庫を構え、豊富な製品ストックが短納期などの顧客ニーズへの対応を支え、同社の競争力の源泉となっています。今後は、「グローバル人材の採用・登用から海外進出も視野に入れたい」と大橋社長。京都の伝統ある化学品商社は国際展開を見据えています。

前田化学株式会社

代表者/代表取締役社長 大橋 庸利
住 所/中京区烏丸通二条下秋野々町524
T E L / 075-231-0166
事業内容/化学製品卸



本所は、100年以上にわたりお世話になった烏丸夷川を離れ、3月から四条室町の京都経済センターに移転いたしますが、これからも各種事業に積極的に参画いただき、社業の発展にご活用されますようお願いいたします。

変化を恐れぬ独創経営

株式会社友屋は、「お店づくり」の総合カタログショップ「Shop for shop」を中心に、店舗用什器や備品、サイネージなどを提供しております。会社の草創期は、和装から洋装へ移り変わる頃。海外製品を参考に、洋服に値札を付ける「ピンクリップ」を国内で初めて商品化、手紙で注文を受け全国の百貨店に納品する通信販売のはしりとなりました。その後、書類をまとめる「ダブルクリップ」や受付・待合の「番号札」など、商いの場で重宝されるグッズを次々と考案されてきました。

1980年代には「ファイバー

ボックス」が大ヒット。本社西側の直販店「IREMONYA」には、カラフルで可愛いオリジナルの収納ボックスが並んでいます。近年は、店舗用サイネージのラインナップを充実させるため、上海に自社工場を設立したり、インバウンド需要に着目したハイクラスの滞在型ホテル「Tomoya Residence Hotel」を開業するなど、異業種への参入にも注力。創業者の口癖「新しい物を考える」が同社の哲学として引き継がれており、時代に応じた独創的なビジネスモデルを築く礎となっています。



「IREMONYA」の店内をご案内いただいた林会長(右)

株式会社友屋

代表者/代表取締役会長 林章治
代表取締役社長 林大輔
住所/中京区二条通高倉西入松屋町54
TEL/075-256-1585
事業内容/販促・店舗用品・サインシステム・ディスプレイ



ホテルの前にて

名水が育む食文化、創業の地から新事業発信

江戸時代中期、1781年(天明1年)創業のキンシ正宗株式会社創業の創業地に建つ堀野記念館。酒造りの道具や町家の見学、買い物を楽しめ、かつて洛中で盛りであった酒造りの歴史を語り継ぐ貴重なスポットです。現在も井戸からは名水「桃の井」がここんと湧き出て、「良い出汁が出る」と遠くは東京の料理店が求めに來られることも。同社では、京都で一部の老舗の店に、直接販売するスタイルを今も続けておられます。それぞれのお店の好みを熟知し、最適な商材を提案、ユネスコ無形文化遺産の

和食文化を支えています。近年は、食品企業を経て入社された堀野社長が陣頭指揮をとられ、ポン酢や鍋つゆなど蔵元ならではの商品開発を推進。食品事業が収益の柱として育ちつつあり、「今後も視野広くチャレンジし、日本酒の可能性を拡げたい」と堀野社長。守るべきものを守りながら、新たな事業を創造する、まさに京都の老舗の温故知新を感じ取ることが出来ます。



堀野社長(右)と乾杯

キンシ正宗株式会社 堀野記念館

代表者/代表取締役社長 堀野 恭史
住所/中京区堺町通二条上ル亀屋町172
TEL/075-223-2072
事業内容/清酒製造



名水「桃の井」の前にて



会頭のひとこと

今回は、本所ビルの近くで、長年にわたり事業を続けてこられた4社を訪問しました。各社それぞれの歴史には、自社の強みを踏まえ、顧客や社会のニーズを的確にとらえ、果敢なチャレンジと変革を経られてきたことに、大変感銘を受けました。↗